事例No.	1569
公表年度	R3
団体の属性	都道府県
団体名	青森県・愛知県

事例区分	DX

タグ	・人材確保・育成 ・ICT ・福祉・介護

事例種類	自治体DX推進

事例内容・タイトル

地域におけるデジタル活用支援

出典

自治体DX推進手順書参考事例集

事例：地域におけるデジタル活用支援【青森県・愛知県】

Point ➢ 高齢者や障害者にiPadの使い方を教える地域人財を育成

概要（青森県）

○ 東日本大震災をきっかけに、高齢者や障害者に対して、①災害時にデジタル技術を活用した情報収集ができること、②日常生活や趣味をより充実したものとすること、を目的に、iPadの活用を教えることのできる講師を育成するための講座を平成25年度から開催している。これまで203名を育成。

○ 県内3箇所のエリアごとに、10回の講座を通じて１年かけて講師を育成。講座では、実際に障害者等に教える機会を設けており、受講後にスムーズに活動を行えるようカリキュラムを工夫している。

○ 講座を受けた講師は、周囲のデジタルに不慣れな人のサポートをしている。特に、八戸市では、受講者同士がサークルを結成し地元施設を活用するなどして障害者等の支援を行っている。



R2年度受講者募集チラシ→

【参考情報】 人口：127.6万人
関連URL：https://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/ict/R3iPad.html

Point ➢ デジタルの教え手となる高齢者を育成し、高齢者が高齢者を支援する仕組み

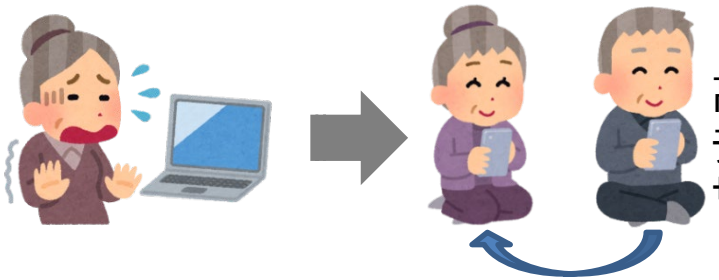
概要（愛知県）

○ 令和３年度以降、県が、市町村から推薦を受けた候補者に対して講習（受講無料）を行い、「高齢者デジタルサポーター」※として育成し、登録。

※デジタルに不慣れな高齢者に対して、同じ高齢者の目線で情報機器の操作方法等の説明や相談に応じる概ね65歳以上の者

○ サポーターは、市町村の依頼に応じて、高齢者向けの研修の講師や相談要員等として、派遣される。

○ サポーターは、スマートフォンの基本操作や高齢者が巻き込まれがちなトラブル、マイナンバーカードの利活用等の研修、相談対応を行う予定。



【参考情報】 人口：757.6万人